第２学年　図画工作科学習指導案

１　題材名　ともだち　見つけた！　「Ｂ鑑賞（１）ア」「共通事項アイ」

２　題材設定の理由

本題材は，身近にある自然や造形物の部分に注目し，顔に見える形「ともだち」を探す鑑賞活動である。子供たちがふだん意識せずに見ている生活空間にあるものの中から，「ともだち」を見付け，カメラで撮影する。そして，自分が見付けたお気に入りの「ともだち」を友人と伝え合う活動を通して，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる力を育てることをねらいとしている。さらには，友人の見付けた「ともだち」を鑑賞し，造形的な面白さや楽しさを伝え合うことで，自分の見方や感じ方を広げ，いっそう造形的な面白さや楽しさを味わえるようにしたい。

本学級の児童は，図画工作科の学習を楽しみにしており，意欲的に取り組んでいる。鑑賞活動では，作品が完成した後に発表会を開いたり，「いいね！シート」というワークシートに友達の表現のよいところを書いて掲示したりする活動をしてきた。また，作品を教室に掲示すると，友達の作品に強く興味を示して，休み時間に楽しく鑑賞している児童も多くいる。作品を見ながら，「〇〇みたい」「〇〇の感じがする」といったつぶやきを発し，何かに見立てて楽しむ等，形や色からイメージを膨らませることもできるようになってきた。

そこで，今回は身近にある自然や造形物を対象とし，新たな気付きを得たり，自分の見方や考え方を広げたりすることで，造形的な面白さや楽しさへの興味関心を深めることができるようにする。

指導にあたっては，「顔に見える」という視点をもつことで，楽しみながら形や色などに興味や関心をもつようにする。また，撮影することにより，見る角度を変えてみたり，カメラに収める範囲を考えたりするなど，対象をじっくりと見ることができると考える。

友人との交流の場では，互いに尊重し合い，満足できるように，一人一人の児童の見方のよさに気付けるよう声かけをする。自分の作品と同じように，友人の作品を大切にし，よさを認め合う態度を養っていきたい。

３　題材の目標

（１）身の回りにあるものをよく見て，隠れている「ともだち」を見付けるときの感覚や行為を通して，いろいろな形や色などに気付く。

（２）形や色などを基に，自分のイメージを持ちながら，身の回りのものの造形的な面白さや楽しさについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げる。

（３）身の回りのものをよく見て，隠れている「ともだち」を見付ける学習活動に楽しんで取り組み，形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身の回りにあるものをよく見て，隠れている「ともだち」を見付けるときの感覚や行為を通して，いろいろな形や色などに気付いている。	・いろいろな形や色などを基に，自分のイメージをもちながら，身の回りのものの造形的な面白さや楽しさなどについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げている。	・身の回りのものをよく見て，隠れている「ともだち」を見付ける学習活動に楽しんで取り組もうとしている。

5　指導計画（２時間　本時２／２）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・見方を変えることで顔に見える形があることに気付き，楽しんで「ともだち」を探す。	知　○ 思　◎	・「ともだち」を探す行為を通して，形や色などに気付いている様子を観察する。 ・「ともだち」を探す様子を観察する。　（観察・写真・ワークシート）
２	・見付けた「ともだち」の楽しさや面白さを味わう。	態　○ 思　◎	・発表の様子を観察・記録する。 （観察・写真・対話）

○題材の評価規準に照らして，適宜，児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして，全員の学習状況を把握し記録に残す。

6　本時の学習

（1）目標

身の回りのものの造形的な面白さや楽しさについて，感じ取ったり考えたりしたことを伝え合い，見付けた「ともだち」の楽しさや面白さを味わう。

（2）展開　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（点線枠）･･･ＩＣＴ活用場面

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体の評価規準	評価方法
５分	1　本時の学習課題をつかむ。 「ともだち」の面白さや楽しさを　つたえあおう	○発表方法や注意点を確認する。		
15 分	2　「面白い」「楽しい」と思う作品を選び，カードに感想を書く。	○誰の作品か分からないようにすることで，固定観念にとらわれずに自分の感性で選べるようにする。	・「ともだち」の面白さや楽しさなどについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げている。 態　思	発言，ワークシート
20 分	3　お気に入りの「トモダチ」を伝え合う。	○友人の作品から感じたことや，自分の作品についての思いを言葉で伝えられるようにする。		
５分	4　本時の学習を振り返る。	○面白かったことや楽しかったことを振り返り，今後の学習への意欲につなげる。		

（3）評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	形や色などを基に，自分のイメージを持ちながら「ともだち」の面白さや楽しさなどに次々と気付き，自分の見方や感じ方を広げるとともに，それぞれの作品のよさを深く味わっている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ＩＣＴ機器を活用し，撮影する角度をいろいろと試し，拡大して細部まで見ることで，より多くの視点から面白さや楽しさを見付けられるようにする。